
靈話

田舎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

靈話

【Z-TR-0】

Z97820

【作者名】

田舎

【あらすじ】

高校一年生と二年生の間の長い休み
つまりは春休み

僕は非日常へと足を踏み入れた

プロローグ

幽霊、悪霊、怪異、化け物

全てが同じ意味ではないが、このどれもが地球上。いや、銀河系どこを探してもいるはずのない存在であった。

そう、過去形だ

僕は自分が見たものしか信じない、現実的な、至って平凡な、つまらない人間だった

もちろん上記の存在なんか信じてはいるわけがなかつた

というより、そのような存在を信じる高校生は稀少な存在だらう

そんな稀少な存在の中の一人に僕が入ることになるとは、だれが考

えただろうか　いや、誰も考えてなんていなかつただらう

避けられた事なかもしれない

避けるべきだつたかもしれない

避けなければならなかつたかもしれない

それでも。それでも僕は、これでよかつたと思える

そんなことをいつたら馬鹿だと思われるかもしれない。でも、本当に、心から、心の底から、よかつたと思える

第一話

僕の名前は燐汰、鞠亜燐汰。

読み方は、まりあ さんただ。

名前苗字を逆にするとサンタマリア
どこの芸能人みたいな名前だ

誕生日は12月25日。

名前のこととも相俟つて、当曰は学校の友達に馬鹿にされる。誕生日
のことなど、だれも祝ってくれずに

毎年、毎年、毎年毎年毎年

まあ、今となつては慣れたのでどうでもいいことだ

閑話休題

5月13日、快晴
時刻は1時ジャスト

学生である僕は今、屋上のベンチに座り、空を見上げている

なにも授業をさぼっているわけではなく、今は所謂お昼休み、という学生にとって非常に、大切な時間である

では、なぜ僕が今、屋上で、一人で、孤独に空を見上げているのか。
それは簡単な理由だ

一人になりたかったから
疲れていたから
休みたかったから

そんな感じだ

でも、僕には休むことは許されないらしい

目線を空から直下。たどり着く先はフェンス、の前に突っ立つている女子生徒の後ろ姿

髪は黒のショートヘア、すらつとした体型
着ている服は、僕の通う高校の制服だ。つまり、同じ高校の生徒、
だった

だった。この表現に間違いはない

今時の女子高生のスカートは短い。とても短い
多分だが、自分の足を見せる為に短くしているのではないだろうか。
まあ男である僕にはよく分からないが……

彼女も例によつてスカートは短い

しかし。そこから下、つまり足が、透けている

すらりと伸びた彼女の足は、限りなく、透けている

つまり、そらゆうじことである。

そつと、彼女を、生徒だった。と表現したのはこれが理由である

彼女は、この世には存在しない、存在するはずのない、存在しては
ならない生き物だ。

いや、生き物というのはおかしい。

なぜなら彼女は生きていないのである……

彼女は、所謂、靈

幽靈

惡靈

化け物

怪異

魍魎

沢山の呼び名があるが、彼女は靈、と呼ぶのが正解ではないだろうか。よくわからないが

靈感のない、普通の人はまず見えない、触れない

靈感のある、つまりは靈能者は見ることはできる。しかし触れはない

僕は後者である。見えるが触ることはできない

今の状態では、の話だが

なにも仮面ライダーみたいに変身するわけでも、ましてや、変態するわけでもない

ただ、ただ単に右目に意識を集中させるだけ。
それだけ。

それだけで、僕は、奴らに触れるようになる。

それだけで、僕は、人外の力、人外の能力を得られる
それだけで、僕は 人間を辞められる

右の瞼をゆっくりと閉じる左目は真っすぐ彼女を捉えている

集中、集中、集中

血液が、僕の、右目に、ゆっくりと、しかし確実に、全身に力が、
人外の、力が……

きた。

右の瞼をゆっくりと開いて行く

視界に映るものに変わりはない。
いや、遠くまでより鮮明に見えるようになつた

彼女は、相変わらずフェンスの外を見ている。

静かにベンチから立ち上がり、猫のようにな足音を立てずに近付いて行く、間に左のポケットに片手を突っ込み、中にあるものを握りしめる

それは四角形で、布で出来ていて、御利益目的で寺や神社で良く売られている、所謂お守り

しかし、これは非売品。ある人特製。御利益なんてあるわけない
これは不幸を僕に届けてくれる代物なのでは。と考えている内に彼女の真後ろに到着

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9782o/>

靈話

2010年11月19日15時34分発行